

「ドンドン語ろう！ in 清水」（平成29年10月27日 清水まちづくりセンター）開催 ご意見用紙提出分 参加者：48名

No.	ご意見	回答	局	担当課
1	<p>まちづくりセンター設置について</p> <p>(1)</p> <p>趣旨は、地域の諸問題を速やかに把握して対処するためかと思う。 それは前文の総人口の長期推移への対応策としてつながっていくのか。 この対策が未来を視た市政ということなのかと思う。</p> <p>(2)</p> <p>設置以来、6ヶ月あまり、まだ十分に機能していないのはわかるが、本日の清水公民館での「ドンドン語ろう！」内の市民からの要望は、職員2名が120パーセント機能を発揮していれば、「ぞんじてます。このように対処しました。またはおそらく何ヶ月以内に対処し回答します。」となるはずだが、一年後に今日のような市民の要望に答えられるだろうか。 すでに知っていて、対応への実行を担保するどのような人事管理、目標管理をするのか。担当職員像をどのように創り出すのか。それが全く見えな い。 一所懸命に頑張る、ではできないだろう。</p>	<p>今後の更なる人口減少、少子高齢社会の到来を見据え、これからの行政職員のあり方として、窓口で手続きを待っているだけではなく、地域にどんどん出て行って、地域とともに様々な課題や要望に対応していくことが重要であるという認識を持っています。 そのため、本年度、出張所等の再編を行い、そこで得られた人員を地域担当職員として配置し、組織も「出張所」等から「まちづくりセンター」に改編いたしました。 地域担当職員は、まずは、地域との関係性を築くことからスタートし、地域の諸課題を地域・関係部署と連携して、迅速な解決へ向けた支援を大きな役割として担っています。また、将来的には、地域が自主的・自立的なまちづくり活動を積極的に行うこと、地域力の向上が大きな目標です。 各地域の諸問題について、地域担当職員のみで解決するケースは少ないですが、関係部署と連携しながら、地域とともに考え、行動してまいりますので、今後とも、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。（地域政策・清水）</p>	<p>市民局 北区役所</p>	<p>地域政策課 清水まちづくりセンター</p>
	<p>まちづくりセンター設置について</p> <p>(3) 具体例</p> <p>私道における市道化、下水道の敷設等、団地周辺の道路法面の除草等の問題は、まさに縦割り行政の問題のきわみをついていた。 どのように横槍ならぬ横串を入れ、部署間の調整を図るのか。</p> <p>※ 当日意見交換内容の「No.10、11」を参照</p>	<p>【計画調整課】</p> <p>私道に下水道を布設するには、別途申請をしていただく必要があります。私道は個人の財産でありますので、その土地所有者様の承諾なしに設置ができないためです。 私道が市道に移管されましたら、道路部に占用の申請を行ったうえで下水道の工事を実施することとなります。 今後は、関係部局との連携を密にし、早急な課題解決に取り組んでまいります。</p> <p>【地域政策課、清水まちづくりセンター】</p> <p>長年にわたり懸案となり、制度改正・予算要求等が必要と考えられる案件については、今年度から地域ニーズ反映の仕組みとして、区・局協議の場を設けて、具体的な協議をすることとしています。 地域の要望どおりの解決が難しい案件もあるかと思いますが、今後とも関係部署と連携し、情報を共有しながら、地域に対して丁寧な説明ができるよう努めてまいります。</p>	<p>上下水道局 市民局 北区役所</p>	<p>計画調整課 地域政策課 清水まちづくりセンター</p>
	<p>(4) 熊本電鉄の活用</p> <p>市長は、県会議員時代に熊本電鉄の上熊本乗り入れを考えたというが、政令都市になった現在、熊本市のドーナツ化阻止のためにも、延伸等を考えるべきである。 通町筋の百貨店、上通・下通商店街との第三セクターの設立でも軌道問題を解決する等の試みをぜひ。</p> <p>※ 当日意見交換内容の「No.12」を参照</p>	<p>ご意見をいただいた熊本電鉄の結節については、平成19年度に合志市及び本日で都市結節計画検討委員会を立ち上げ、道路管理者や交通管理者も参加いただいた中で検討を進めたが、交通渋滞の懸念や費用対効果、採算性から非常に厳しいという結論になっている。 しかし、熊本電鉄は、熊本市と合志市をつなぐ基幹公共交通軸として重要な役割を担っているため、今後とも鉄道利用者の安全性の向上、及び鉄道運行の維持、確保に取り組んでいく。</p>	<p>都市建設局</p>	<p>交通政策課</p>

「ドンドン語ろう！ in 清水」 (平成29年10月27日 清水まちづくりセンター) 開催 ご意見用紙提出分 参加者：48名

No.	ご意見	回答	局	担当課
1	<p>(5) 私見 若者都市、教育都市、出産都市 (福田病院、慈恵病院の活用)</p>	<p>【教育都市について】【教育政策課】 社会の急激な変化が予想される中、子どもたちが自分の人生を切り拓いていくために必要な資質・能力を育むことが求められている。 本市では、「徳・知・体の調和のとれた人づくり」に取り組みながら、「教育都市くまもと」の実現を目指している。 そのため、さまざまな施策を実施しているが、特に、2020年から全面实施となる新学習指導要領に対応するため、小中学校に電子黒板やタブレット端末を導入するなど、ICT環境整備を進め、また、外国語活動や小学校英語の教科化については先行実施するなど、教育に関する取組を計画的に進めていくこととしている。</p> <p>【子ども支援課】 妊娠・出産に関する相談や健康審査など、妊娠・出産などに関する母子保健対策を適切に実施することにより、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>教育委員会  健康福祉局</p>	<p>教育政策課  子ども支援課</p>
	<p>(6) 若者に未来を。 教育環境の整備には公債発行も検討するべきだ。</p>	<p>【教育委員会施設課、財政課】 本市では、児童生徒が、安全で快適な学校生活を送り、健やかに成長するための多様な学習環境を支えるため、教育環境の整備に取り組んでいる。 なお、教育環境の整備については、国庫補助金をはじめ、学校教育施設等整備事業債などの市債費を活用し対応している。</p>	<p>教育委員会  財政局</p>	<p>施設課  財政課</p>